

株主・投資家のみなさまへ  
第47期 中間事業報告書  
平成16年1月1日から平成16年6月30日まで



コカ・コーラウエストジャパン株式会社



株主・投資家のみなさまへ .....	1
基幹ブランドの強化と新規分野への取り組み .....	3
トピックス .....	5
中間連結財務諸表 .....	7
経営指標の推移(連結) .....	11
会社概要／取締役・監査役 ·	
執行役員・グループ執行役員 .....	12
株式の状況 .....	13
株主メモ／株主優待制度 .....	14

# 株主・投資家のみなさまへ

## 中間期は増収増益を達成

今中間期における清涼飲料業界は、年初より総じて好天に恵まれたことおよび市場の牽引役である無糖茶の需要が回復したことにより、市場成長はプラスとなりました。しかし、依然として、競争の激しい量販店での販売増加やパッケージの多様化などコスト増加傾向に歯止めがかからず、清涼飲料各社の経営環境は相変わらず厳しい状況でした。

このような状況において、当社グループは、大いなる成長力と活力に満ち溢れるコカ・コーラウエストジャパングループに生まれ変わるべく策定した中期経営計画「皆革」の達成に向けて、当期を「確実に成果を実現する年」と位置付け、前期実施した足場固めをもとに「皆革」の効果を創出する活動にグループ一丸となって取り組んでまいりました。



その結果、連結ベースの当上半期の経営成績は、売上高が<sup>1</sup>1,198億5千万円(前年同期比6.0%増)、営業利益が82億9千4百万円(前年同期比8.3%増)、経常利益が83億8千7百万円(前年同期比6.9%増)ならびに中間純利益は47億2千6百万円(前年同期比13.8%増)となりました。

## 販売促進に向けた商品力、オペレーションの強化と生産ラインの改造

営業面では、「コカ・コーラC2」の世界先行発売や「爽健美茶」「アクエリ亞ス」の新パッケージグラフィックの導入など、既存ブランドの強化をはかるとともに、特定保健用食品や栄養機能食品分野に対応する「the Wellness FROM Coca-Cola」ブランドの立ち上げやアルコールテイスト飲料の導入など新規分野への取り組みを開始しました。

次に、お客様・お得意さまの特性に応じたきめ細やかな販売促進活動、新鮮な商品を提供し品切れをなくすための質の高いオペレーションや自動販売機のIT化推進など、競争優位性の確立に向けた活動を実施しました。

### 中期経営基本方針「かいかく皆革」

- ・ お客様・お得意さまに必要とされるCCWJグループへの『皆革』
- ・ 飲料ビジネスをリードするCCWJグループへの『皆革』
- ・ 役割・機能を徹底追求するCCWJグループへの『皆革』
- ・ 社員と組織の活力を引き出すCCWJグループへの『皆革』
- ・ 社会と共生するCCWJグループへの『皆革』

### 中期経営基本政策

- ・ 新たなビジネスシステムの構築
- ・ CCWJグループ経営の強化
- ・ 人材マネジメント改革
- ・ 社会との共生

また、生産面では、今後のボトル缶商品の販売拡大を踏まえ、さらなる生産性の向上をはかるため、本郷工場の缶ラインをボトル缶ラインへ改造し、5月よりボトル缶の製造を開始しました。また、高品質で安心してお飲みいただける商品の提供をさらに徹底するための品質マネジメントの強化や、非生産時間の削減などによる徹底したコスト低減に取り組みました。

## 「皆革」推進で中期経営計画達成

今後の見通しについては、個人消費に回復の兆しが見えてきたものの、清涼飲料市場は引き続きメーカー間の激しい競争が展開されるものと予想されます。

このような厳しい経営環境の中、当社は、中期経営計画「皆革」2年目となる平成16年を「確実に成果を実現する年」とすべく、グループ一体となって継続した活動を展開していきます。

また、こうした活動に加え、日本コカ・コーラ株式会社や全国のコカ・コーラボトラーとの協働活動にも継続して取り組んでいきます。

これらの活動により、今年度「確実に成果を実現する」を達成し、中期経営計画最終年度となる平成17年のさらなる飛躍に向けて、全力をつくします。

## 中間期および期末配当金を増額

平成16年12月期の配当金については、株主さま重視の観点から積極的な利益還元に努めることとし、当期の中間配当金を1株当たり2円増配の20円、期末配当金(予想)を1株当たり2円増配の20円としました。これにより年間配当金(予想)は、1株当たり4円増配の40円となります。

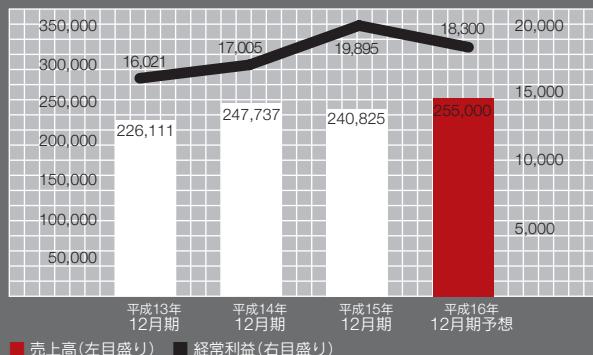
株主・投資家のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役  
社長兼CEO

末吉 紀雄

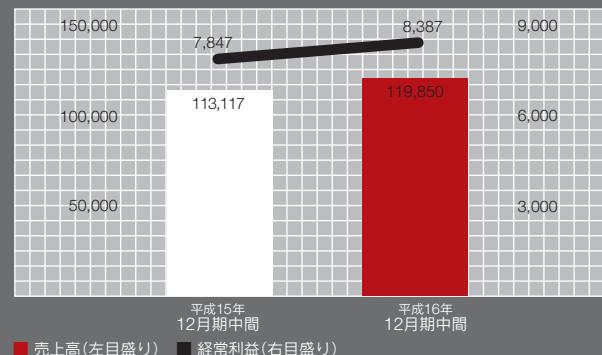
### 連結売上高・経常利益(通期)

(単位:百万円)



### 連結売上高・経常利益(中間期)

(単位:百万円)



## 基幹ブランドの強化と新規分野への取り組み

今中間期は、コカ・コーラ、ジョージア、アクエリアス、爽健美茶といった基幹ブランドの強化をはかるとともに、新規分野への取り組みを開始しました。



### カロリー半分以下、 おいしさキープ コカコーラ C2

パッケージグラフィックは「コカ・コーラ レッド」をベースにおなじみのコカ・コーラ トレードマークを黒で配して、「新しさ」と「次世代感」を意識した力強いデザインを採用しました。「次世代のコカ・コーラ」という意味を「コカ・コーラ C2」(コカ・コーラ シーツー)のネーミングに込めています。

世界先行発売にあたり、広告キャンペーンに日本を代表するサッカー選手である中田英寿選手を起用し、過去最大規模のマーケティングプログラムを展開しています。

世界規模で導入する基幹ブランド「コカ・コーラ」の大型新製品を米本国以外で先行発売するのは、コカ・コーラ社史上初めてです。日本が「コカ・コーラ C2」の世界先行発売の市場に選ばれた背景には、日本市場の先進性と重要性に加え、営業、マーケティング、製造など様々な分野で協働体制を強化している日本のシステムの優れた市場実行力が、世界的に高い信頼と評価を得ていることがあります。

「コカ・コーラ C2」の導入により、「コカ・コーラ」の新たな成長基盤強化をはかります。

#### CM紹介



「中田のマイ・コーク」編

## ジョージア

平成15年9月より、新キャンペーン「気分はジョージア」を展開。今中間期においてもこのキャンペーンを継続強化しました。おかげさまで、消費者からの評価は大変高く、販売数量の拡大に貢献しています。

その販売数量は当社全体の約32%を占め、数あるブランドの中で、最も高い販売数量構成を誇る基幹ブランドです。なお、ジョージアの缶コーヒー市場における市場占有率は72%と圧倒的なNo.1です。



## 爽健美茶

平成16年2月より、爽健美茶はパッケージデザインを一新。同時に、新キャンペーン「So Beautiful. 爽健美茶」をスタートさせました。

さらに4月には、緑茶をベースにしたブレンド茶として、「緑茶ブレンド」も新発売。

販売数量は月を追うごとに順調に推移し、ブレンド茶の市場における爽健美茶の市場占有率は81%と圧倒的なNo.1となっています。



## アクエリアス

平成16年2月より、優れた水分補給機能に5つのカラダ健康成分をプラスし、さらにカロリーオフへと進化した新「アクエリアス」の発売に合わせ、新キャンペーン「BODY! ゴーー」を展開。幅広い人々が毎日の生活中で自分らしく体を動かすことを応援し、気候が暖かくなるにしたがって、その販売数量も拡大してきています。

なお、スポーツ飲料市場におけるアクエリアスの市場占有率は51%とNo.1です。

## 新規分野への取り組み

特定保健食品や栄養機能食品分野、アルコールテイスティング飲料分野ならびにゼリータイプ商品分野への進出や、異業種とのコラボレーションによる商品導入にも取り組んできました。こうした取り組みにより新しい価値の創造をはかります。



# トピックス

## 新商品(平成16年度の主な新商品)

### 基幹ブランド



### 新規分野



### その他



## プロモーション



▲爽健美茶ペアチケットプレゼント

Qoo(クー)1.5LPET ▶  
ニアパックプロモーション



▼アクエリアスオンパックプロモーション



## 地域社会貢献活動

コカ・コーラウエストジャパングループは、「地域社会とともに」を基本姿勢に、「社会福祉支援」「スポーツ活動支援」「文化・教育活動支援」「地域イベント支援」など、地域社会に対する貢献活動を実施しています。

今中間期の活動内容としては、青少年の健全な育成を目的として、株式会社リコーおよびリコー三愛グループとともに佐賀県鳥栖市河内町に設立し、2年目を迎えた「市村自然塾 九州」において、今年からは女子の活動も展開しています。

また、今年も公立の盲・聾・養護学校へのパソコンなどの教材贈呈、小学校への一輪車贈呈、さらには「さわやかクラシックコンサート」開催や当社グループのカンパニースポーツクラブであるラグビー部員の指導による「さわやかラグビークリニック」の開催などの活動を行い、地域社会のみなさまにご好評をいただいています。

▼小学校への一輪車贈呈



▼市村自然塾 九州 基本理念「生きる力を大地から学ぶ」



◀西日本ビバレッジ株式会社ISO14001登録証

## 環境推進活動

コカ・コーラウエストジャパングループは「環境好感度No.1企業へ」を目指し、地球温暖化対策への取り組みを基本とし、環境美化・環境保全・資源のリサイクルなどの活動を実施しています。

今中間期の活動内容としては、地球温暖化対策実行計画の策定や、グループ会社の西日本ビバレッジ株式会社における環境管理の国際規格であるISO14001の認証取得、北九州さわやかりサイクルセンターの本格的な稼動開始など「環境好感度No.1企業」の達成に向け、積極的な取り組みを推進しています。

なお、当社グループは、6月に福岡市より「平成16年度福岡市環境保全功労者」として表彰を受けています。

# 中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第46期 (平成15年12月期)	第47期中間 (平成16年12月期中間)
<b>&lt;資産の部&gt;</b>		
<b>流動資産:</b>		
現金及び預金	15,295	13,872
受取手形及び売掛金	13,175	13,321
有価証券	7,141	7,401
たな卸資産	12,570	11,987
その他	9,069	11,663
貸倒引当金	△ 118	△ 99
<b>流動資産合計</b>	<b>57,134</b>	<b>58,147</b>
<b>固定資産:</b>		
<b>有形固定資産:</b>		
建物及び構築物	18,852	18,339
機械装置及び運搬具	14,674	15,234
販売機器	17,740	20,263
土地	34,722	34,793
その他	992	1,266
<b>有形固定資産合計</b>	<b>86,982</b>	<b>89,897</b>
<b>無形固定資産:</b>		
連結調整勘定	118	76
その他	2,599	2,424
<b>無形固定資産合計</b>	<b>2,718</b>	<b>2,500</b>
<b>投資その他の資産:</b>		
投資有価証券	40,636	37,905
前払年金費用	13,306	16,275
その他	3,666	3,547
貸倒引当金	△ 264	△ 269
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>57,344</b>	<b>57,458</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>147,045</b>	<b>149,857</b>
<b>資産合計</b>	<b>204,180</b>	<b>208,005</b>

## 【流動資産】

流動資産は、前期末に比べ、10億1千3百万円増加し、581億4千7百万円となりました。これは主として、その他の中の未収入金が増加したことによるものであります。なお、たな卸資産については、在庫圧縮にグループをあげて取り組んだことにより、5億8千3百万円の減少となりました。

## 【固定資産】

固定資産は、前期末に比べ、28億1千1百万円増加し、1,498億5千7百万円となりました。これは主として、販売機器の増加ならびに退職給付制度変更による前払年金費用が増加したことによるものであります。

### ※前払年金費用

退職給付制度において、退職給付債務に対して年金資産が超過した場合、その超過額を前払いしているものとして取り扱うもの。

(単位:百万円)

科 目	第46期 (平成15年12月期)	第47期中間 (平成16年12月期中間)
<b>&lt;負債の部&gt;</b>		
<b>流動負債:</b>		
支払手形及び買掛金	8,950	8,341
1年以内に返済する長期借入金	203	203
未払法人税等	2,924	2,447
未払金	5,426	7,515
設備支払手形	667	197
その他	5,681	8,151
<b>流動負債合計</b>	<b>23,853</b>	<b>26,857</b>
<b>固定負債:</b>		
退職給付引当金	3,394	3,215
役員退職引当金	323	315
その他	6,877	8,207
<b>固定負債合計</b>	<b>10,595</b>	<b>11,738</b>
<b>負債合計</b>	<b>34,449</b>	<b>38,596</b>
<b>&lt;少数株主持分&gt;</b>		
少数株主持分	4,276	4,300
<b>&lt;資本の部&gt;</b>		
資本金	15,231	15,231
資本剰余金	35,399	35,399
利益剰余金	122,372	125,564
その他有価証券評価差額金	411	791
自己株式	△ 7,960	△ 11,879
<b>資本合計</b>	<b>165,454</b>	<b>165,108</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>204,180</b>	<b>208,005</b>

**【流動負債・固定負債】**

流動負債は、前期末に比べ、30億4百万円増加し、268億5千7百万円となりました。これは主として、本郷工場ボトル缶ライン新設に伴い、未払金が増加したことによるものであります。

固定負債は、前期末に比べ、11億4千3百万円増加し、117億3千8百万円となりました。

**【資本の部】**

資本合計は、前期末に比べ、3億4千6百万円減少し、1,651億8百万円となりました。これは主として、中間純利益により、利益剰余金が増加したものの、資本政策の一環として自己株式の取得を行ったことによるものであります。

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第46期中間 (平成15年12月期中間)	第46期 (平成15年12月期)	第47期中間 (平成16年12月期中間)
<b>売上高</b>	<b>113,117</b>	<b>240,825</b>	<b>119,850</b>
<b>売上原価</b>	<b>62,310</b>	<b>132,995</b>	<b>66,036</b>
売上総利益	50,807	107,829	53,814
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>43,148</b>	<b>88,191</b>	<b>45,519</b>
<b>営業利益</b>	<b>7,658</b>	<b>19,638</b>	<b>8,294</b>
<b>営業外収益</b>	<b>599</b>	<b>1,100</b>	<b>563</b>
受取利息	169	254	137
受取配当金	25	35	26
不動産賃貸料	147	294	150
その他	257	516	250
<b>営業外費用</b>	<b>411</b>	<b>843</b>	<b>471</b>
支払利息	16	22	4
有価証券売却損	21	—	44
固定資産除却損	161	441	230
不動産賃貸原価	95	188	75
その他	117	191	116
<b>経常利益</b>	<b>7,847</b>	<b>19,895</b>	<b>8,387</b>
<b>特別利益</b>	<b>231</b>	<b>231</b>	<b>64</b>
固定資産売却益	231	231	64
<b>特別損失</b>	<b>820</b>	<b>2,141</b>	<b>210</b>
固定資産売却損	45	45	60
水害損失	—	43	—
投資有価証券売却損	31	31	—
固定資産除却損	—	17	—
投資有価証券評価損	87	97	—
ゴルフ会員権等評価損	177	189	4
子会社等再編費用	96	753	—
商品廃棄損	269	269	—
商品評価損	—	112	—
香料成分問題対策損失	113	113	—
品質問題対策損失	—	466	—
新紙幣対応費用	—	—	145
<b>税金等調整前中間(当期)純利益</b>	<b>7,257</b>	<b>17,985</b>	<b>8,241</b>
法人税、住民税及び事業税	932	3,768	2,398
法人税等調整額	2,251	5,532	1,102
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 79	△ 695	13
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>4,152</b>	<b>9,380</b>	<b>4,726</b>

### 【売上高】

売上高は、前中間期に比べ、67億3千2百万円増加し、1,198億5千万円となりました。これは、コカ・コーラ、ジョージアをはじめとした基幹ブランドを中心に販売数量が伸びたことによるものであります。

### 【営業利益・経常利益】

営業利益は、前中間期に比べ、6億3千5百万円増加し、82億9千4百万円となりました。これは販売手数料および退職給付費用の増加により、販売費及び一般管理費が増加したものの、販売数量増に伴う売上総利益の増加がそれを上回ったことによるものであります。

営業利益の伸びを受け、経常利益は前中間期に比べ、5億4千万円増加し、83億8千7百万円となりました。

### 【中間純利益】

中間純利益は、前中間期に比べ、5億7千3百万円増加し、47億2千6百万円となりました。

## 中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	第46期中間 (平成15年12月期中間)	第46期 (平成15年12月期)	第47期中間 (平成16年12月期中間)
<b>&lt;資本剰余金の部&gt;</b>			
資本剰余金期首残高	35,399	35,399	35,399
資本剰余金增加高	—	—	0
自己株式処分差益	—	—	0
<b>資本剰余金中間期末(期末)残高</b>	<b>35,399</b>	<b>35,399</b>	<b>35,399</b>
<b>&lt;利益剰余金の部&gt;</b>			
利益剰余金期首残高	115,771	115,771	122,372
利益剰余金增加高	4,152	9,380	4,726
中間(当期)純利益	4,152	9,380	4,726
利益剰余金減少高	1,433	2,779	1,533
配当金	1,392	2,738	1,503
役員賞与	41	41	30
<b>利益剰余金中間期末(期末)残高</b>	<b>118,490</b>	<b>122,372</b>	<b>125,564</b>

### 【営業活動によるキャッシュ・フロー】

営業活動によるキャッシュ・フローは、前中間に比べ、20億6千1百万円増加いたしました。これは主として、前期に移籍一時金の支払いを行ったことにより、営業活動によるキャッシュ・フローが低い水準であったためであります。

### 【投資活動によるキャッシュ・フロー】

投資活動によるキャッシュ・フローは、前中間に比べ、18億3千7百万円支出が減少いたしました。これは主として、効率的な資金運用を目的とした運用資産の見直しに伴い、保有している公社債投資信託の解約を行ったことにより、収入が増加したことによるものであります。

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第46期中間 (平成15年12月期中間)	第46期 (平成15年12月期)	第47期中間 (平成16年12月期中間)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,694	18,423	9,755
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,591	△ 20,852	△ 6,753
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,754	△ 11,107	△ 5,422
現金及び現金同等物の減少額	△ 10,651	△ 13,536	△ 2,420
現金及び現金同等物の期首残高	35,406	35,406	21,869
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	24,754	21,869	19,449

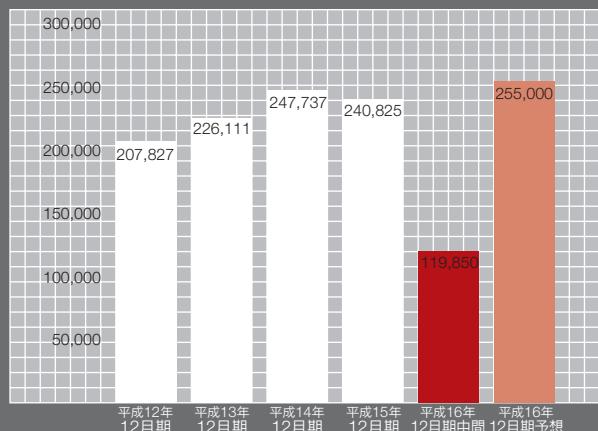
### 【財務活動によるキャッシュ・フロー】

財務活動によるキャッシュ・フローは、前中間に比べ、43億3千2百万円支出が減少いたしました。これは主として、資本政策の一環として実施している自己株式の取得規模が減少したこと、また、前期には、転換社債の償還による支出が発生したことによるものであります。

## 経営指標の推移(連結)

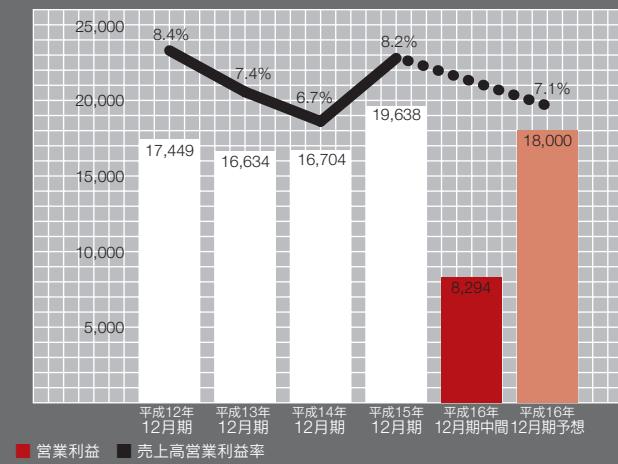
### 売上高

(単位:百万円)



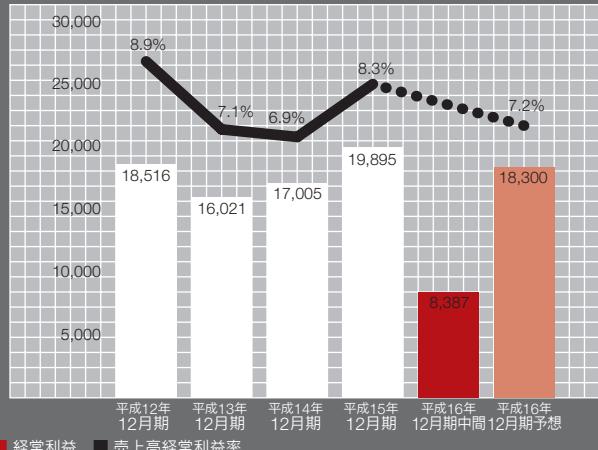
### 営業利益／売上高営業利益率

(単位:百万円／%)



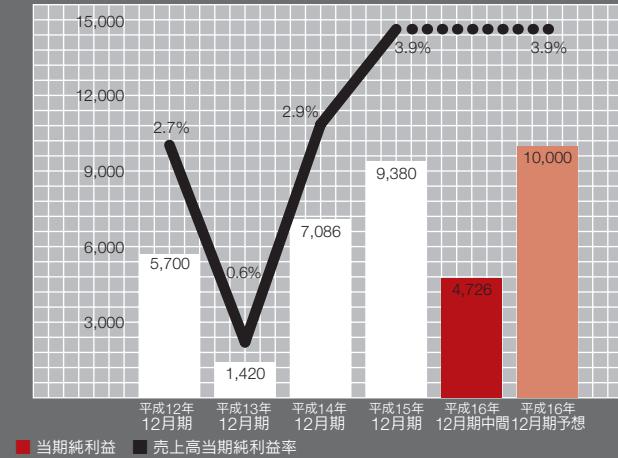
### 経常利益／売上高経常利益率

(単位:百万円／%)



### 当期純利益／売上高当期純利益率

(単位:百万円／%)



# 会社概要 (平成16年6月30日現在)

商号: コカ・コーラウエストジャパン株式会社  
本社所在地: 福岡市東区箱崎七丁目9番66号  
設立: 昭和35年12月20日  
資本金: 152億3千1百万円  
従業員数: 1,807名

主な事業内容: コカ・コーラ、スプライト、ファンタおよび  
ジョージア等の飲料の製造・販売  
上場証券取引所: 株式会社東京証券取引所(市場第一部)  
(所属部) 株式会社大阪証券取引所(市場第一部)  
証券会員制法人福岡証券取引所

## 取締役・監査役・執行役員・グループ執行役員 (平成16年6月30日現在)

### 取締役

代表取締役 久保 長 会長  
代表取締役 末吉 紀雄 ※  
取締役 新見 泰正 ※  
取締役 浜田 広忠 株式会社リコー  
取締役 手島 忠 株式会社ニチレイ  
取締役 魚谷 雅彦 相取締役  
取締役 大戸 武元 代表取締役社長  
取締役 井上 雄介 代表取締役会長  
取締役 有川 貞広 代表取締役  
執行役員

※印の者は、執行役員を兼務しております。

### 監査役

常任監査役 浜田 鴻之介 常勤  
常任監査役 中川 龍二 常勤  
監査役 平川 達男 株式会社リコー  
監査役 大内田 勇成 代表取締役副社長  
株式会社福岡シティ銀行  
代表取締役専務

### 執行役員

社長兼CEO 末吉 紀雄 社長補佐(コンプライアンス・特殊プロジェクト担当)、  
企業倫理担当、環境推進室・品質保証室担当  
副社長 新見 泰正 社長補佐(品質推進委員会担当)兼品質推進室長、広報室  
専務執行役員 森井 孝一 コカ・コーラウエストジャパンユーパーシティ・新規推進室担当  
専務執行役員 森田 聖 営業企画統括部長  
専務執行役員 原田 忠継 経営管理統括部長  
専務執行役員 柴田 暢雄 総務統括部長兼人事部長

常務執行役員 桂 淳 治 フードサービス営業統括部長  
常務執行役員 佐 古 幸 男 ベンディング事業統括部長  
常務執行役員 野見山 昌 三 コンビ・リテール営業統括部長  
常務執行役員 池 龍 彦 チェーンストア営業統括部長  
執行役員 山崎 正 雪 プロジェクト担当部長  
執行役員 三宅 益 男 代理店営業部長  
執行役員 瀬戸 俊 憲 バートナー推進部長  
執行役員 小川 速 雄 オペレーター担当部長  
執行役員 津川 勝 造 営業企画部長  
執行役員 佐藤 繁次郎 ビジネスシステム部長  
執行役員 時枝 直 剛 業務部長

### グループ執行役員

グループ上席執行役員 末安 剛 明 西日本ピバッジ株式会社  
代表取締役、社長  
ロジコムジャパン株式会社  
代表取締役、社長  
コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社  
代表取締役、社長  
麗正丸株式会社  
代表取締役社長  
西日本コカ・クマーマーサービス株式会社  
代表取締役、社長  
三笠コカ・コーラボトルリング株式会社  
取締役、専務執行役員  
コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社  
代表取締役、社長  
ウエストジャパンサービス株式会社  
代表取締役社長  
コカ・コーラナショナルピバレッジ株式会社  
執行役員  
コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社  
取締役、常務執行役員  
コカ・コーラピバレッジサービス株式会社  
標準システム推進部長  
コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社  
取締役、執行役員  
コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社  
取締役、常務執行役員

# 株式の状況

(平成16年6月30日現在)

■ 会社が発行する株式の総数: 270,000千株

■ 発行済株式の総数: 82,898千株

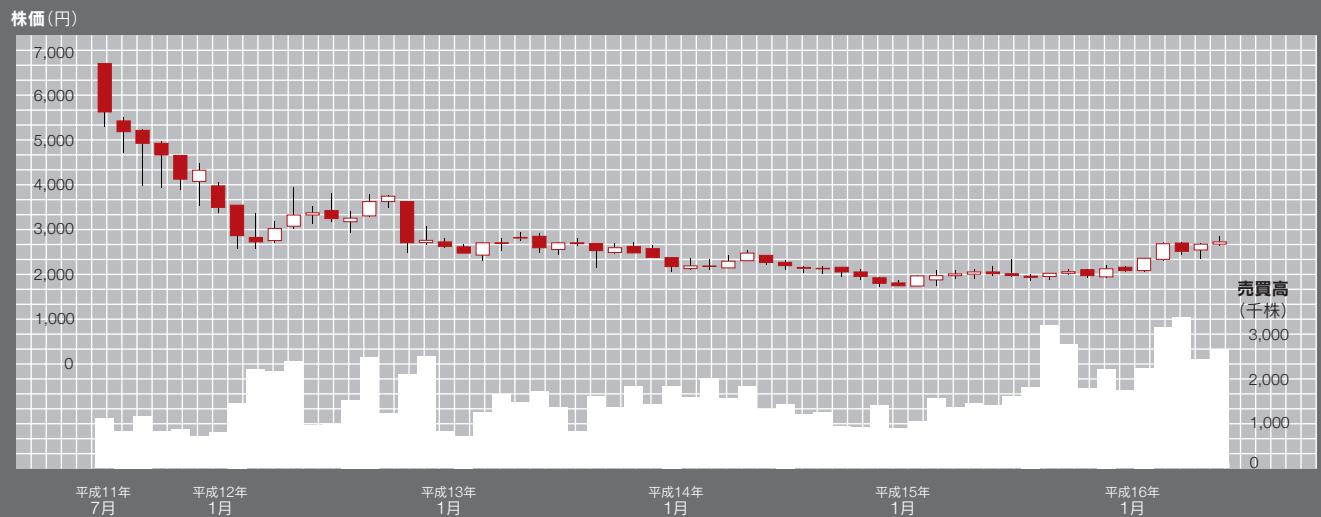
■ 株主数: 13,826名

## ■ 大株主:

株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
株式会社リコー	16,792	21.7
財団法人新技術開発財団	5,294	6.8
コカ・コーラホールディングズ・ウエストジャパン・インク	4,074	5.3
株式会社福岡シティ銀行	3,641	4.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,344	4.3
メロン バンク トリーティー クライアント オムニバス	2,889	3.7
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	2,113	2.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,907	2.5
昭和炭酸株式会社	1,650	2.1
高倉 一恵	1,338	1.7

(注) 当社は、自己株式5,219千株を保有しておりますが、上記の表には記載せず、議決権比率の算定にも含めておりません。

## 最近5年間の株価および株式売買高の推移



## 株主メモ

(平成16年6月30日現在)

**決 算 期** 每年12月31日

**定 時 株 主 総 会** 每年3月

**株 主 確 定 基 準 日**

・定時株主総会、利益配当金 12月31日

・中間配当金 6月30日

その他必要があるときは、あらかじめ  
公告して定めます。

**名義書換代理人** 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

**同 事 務 取 扱 場 所** 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
(〒540-8639)  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

**(郵便物送付先)** 東京都府中市日鋼町1番10

(〒183-8701)

住友信託銀行株式会社 証券代行部

**(住所変更等用紙のご請求)** ☎ 0120-175-417

**(その他のご照会)** ☎ 0120-176-417

**同 取 次 所** 住友信託銀行株式会社 全国各支店

**公 告 掲 載 新 聞** 日本経済新聞

貸借対照表および損益計算書は、決算公告に代えて、  
当社ホームページに掲載しております。

(<http://www.ccwj.co.jp/ir/kessankoukoku.html>)

## 株主優待制度

(平成16年6月30日現在)

コカ・コーラギフト券1枚で、  
500ml PET製品4本と  
お引き換えいただけます。



毎年6月30日現在および12月31日現在の100株以上ご所有の  
株主さまに対し、ご所有株式数に応じて右記のとおり「コカ・コーラ  
ギフト券」をそれぞれ同年9月頃および翌年4月頃に贈呈いたします。

「コカ・コーラギフト券」1枚でコカ・コーラ社製品(500ml PET製品  
(一部の製品を除きます))4本とお引き換えいただけます。

基準日	贈呈基準		優待内容	贈呈時期
	ご所有株式数			
6月30日	100株以上	500株未満	コカ・コーラギフト券 3枚 (1,764円相当)	同年9月頃
	500株以上	1,000株未満	コカ・コーラギフト券 4枚 (2,352円相当)	
	1,000株以上	5,000株未満	コカ・コーラギフト券 6枚 (3,528円相当)	
	5,000株以上		コカ・コーラギフト券12枚 (7,056円相当)	
12月31日	100株以上	500株未満	コカ・コーラギフト券 3枚 (1,764円相当)	翌年4月頃
	500株以上	1,000株未満	コカ・コーラギフト券 4枚 (2,352円相当)	
	1,000株以上	5,000株未満	コカ・コーラギフト券 6枚 (3,528円相当)	
	5,000株以上		コカ・コーラギフト券12枚 (7,056円相当)	



コカ・コーラウエストジャパン株式会社  
〒812-8650 福岡市東区箱崎七丁目9番66号  
TEL (092) 641-8581

ホームページアドレス  
<http://www.ccwj.co.jp/>

予想および見通しに関して

この中間事業報告書には、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定および所信に基づく見込みです。また経済動向、飲料業界における厳しい競争、市場需要、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでいます。このため実際の業績は当社の見込みとは異なるかもしれませんことをご承知おきください。



この冊子は環境にやさしい大豆インキを使用しています